

小さな光はやがて群れとなる  
*Little lights become a crowd*

四方謙一

KENICHI SHIKATA

2025年12月5日[金] ~ 2026年3月29日[日]

横濱ゲートタワー1F/Start Gallery 2+4

〒220-0011 横浜市西区高島1-2-5 (とちのき通り側)

Exhibition dates: December 5, 2025 - March 29, 2026

Venue: Yokohama Gate Tower ground level / Start Gallery 2+4

1-2-5 Takashima, Nishi-ku, Yokohama, Kanagawa 220-0011, Japan (Tochinokidori side)

主催：横濱ゲートタワー管理組合 + BankART1929 問い合わせ：BankART1929 [info@bankart1929.com](mailto:info@bankart1929.com) TEL 045-663-2812

※この事業は、公益信託みなとみらい21まちづくりトラスト採択事業です。

# 四方謙一「小さな光はやがて群れとなる」

横濱ゲートタワーの、とちのき通り沿いから眺めるウィンドウギャラリー「スタートギャラリー」では、公募により選出された四方謙一氏の作品を紹介します。

都市は巨大な一つの構造体であり、数えきれない「個」の連続によってかたちづけられている。無数の「個」は現れては消えその軌跡が重なり合うことで、都市という風景を生み出している。

—ある日、街の上空に黒い塊が現れた。ビルのあいだを移ろう影の正体は椋鳥の群れだった。息子は不思議そうに見つめていたが、小さな鳥たちの集まりが一つの造形をなしているとわかり、愛着へと変わった。一つの生命体のようでもあった。—

本作は、重力、空気や光の微細な動き、人や都市の流れなど環境に呼応する小さな立体群で構成される。鏡面板や色板がそれぞれに光を受け止め、小さな変化が互いに連鎖し、この場をゆるやかに変質させる。「個の変化が環境をつくり環境がまた個に影響を与える」関係の連鎖を風景として顕にする。

このウィンドウは、建物の内部であると同時に都市そのものでもある。片方のウィンドウでは、鏡面の立体は、都市の光や人の動きと同時に“あなた”という個も捉え風景に溶け込んでいく。一方では、各々の色板が、光を受けて多様な色彩を表し、内外を染める混色の光をつくる。この二つのウィンドウのそれぞれの光が、この街の一部としてこの場のかたちを浮かび上がらせる。そして、都市や社会という世界の景色に在る「あなた」や「わたし」を捉える装置ともなる。

協力：荒川技研工業株式会社／Arakawa & Co., Ltd. (ワイヤーグリップ)、アイティーエル株式会社／ITL CO., LTD(照明器具)、株式会社かねよし／KANEYOSHI(レーザー加工)、小駒 豪／Go Ogoma(設営・照明計画)

## 四方謙一

1983年京都府生まれ。早稲田大学芸術学校建築設計科卒業。金属や紙を用いたインスタレーションや彫刻、写真など多様な素材や現象を媒介に「場」のかたちや関係性を顕にししながら、世界の在り方を探求している。主な作品や展示に、越後妻有 大地の芸術祭 冬(十日町)、東京ビエンナーレ、奥能登国際芸術祭(珠洲)、UBE ビエンナーレ(宇部)などの国際芸術祭への出展、「Flowing time reflecting on the river」(MIYASHITA PARK / 東京 / 常設)、「GLOWING GROWING GROUND」(大阪国際空港 / 常設)など大規模な常設作品も多数手掛ける。



主催：横濱ゲートタワー管理組合 + BankART1929

問い合わせ：BankART1929  
info@bankart1929.com  
TEL 045-663-2812

Yokohama Gate Tower  
<https://yokohama-gatetower.com/>

BankART1929  
<https://www.bankart1929.com/>

